



平成19年10月5日

## 16カ国26名の研修生を受け入れ、 「第48回国際地震工学通年研修」が開講

独立行政法人建築研究所では、毎年、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、「国際地震工学通年研修」などの地震学・地震工学に関する研修をJICAと協力して行っています。現在までに95ヶ国から1,319名の研修生を受け入れ、国際協力、技術援助の分野で高い評価を頂いています。一昨年度から、「国際地震工学通年研修」は、建築研究所及び政策研究大学院大学（八田達夫学長、東京都港区六本木、以下「GRIPS」という。）、国際協力機構（緒方貞子理事長、東京都渋谷区代々木、以下「JICA」という。）との連携により、所定の単位を取得すれば、修士号学位の取得が可能な研修として実施しています。

この度、16カ国から26名の研修生を迎え、「第48回国際地震工学通年研修」を開講しました。JICA日系人研修員として財団法人海外日系人協会が受け入れたドミニカ共和国の日系3世1名が参加し、2006年2月にマグニチュード7の地震にみまわれた南東アフリカのモザンビークから初参加となる研修生も含まれています。来年9月までの1年間、政策研究大学院大学及びJICAと協力して実施します。

来年9月には、修士号学位を取得した研修修了生が、母国に帰国し、地震学・地震工学・地震防災対策・津波防災対策の専門家として、地震・津波被害の軽減のため活躍されることが期待されています。

### （内容の問合せ先）

独立行政法人建築研究所  
所 属 国際地震工学センター  
管理室長  
氏 名 櫻 澤 昌 二  
電 話 029-879-0678(直通)  
E-mail [sakuraza@kenken.go.jp](mailto:sakuraza@kenken.go.jp)

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。

## 16カ国26名の研修生を受け入れ、

### 「第48回国際地震工学通年研修」が開講

独立行政法人建築研究所では、毎年、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、「国際地震工学通年研修」などの地震学・地震工学に関する研修をJICAと協力して行っています。現在までに95ヶ国から1,319名の研修生を受け入れ、国際協力、技術援助の分野で高い評価を頂いています。一昨年度から、「国際地震工学通年研修」は、建築研究所及び政策研究大学院大学（八田達夫学長、東京都港区六本木、以下「GRIPS」という。）、国際協力機構（緒方貞子理事長、東京都渋谷区代々木、以下「JICA」という。）との連携により、所定の単位を取得すれば、修士号学位の取得が可能な研修として実施しています。

この度、16カ国から26名の研修生を迎え、「第48回国際地震工学通年研修」を開講しました。

今回は、昨年までのJICA研修生25名の他に、財団法人日系人協会の支援により、ドミニカ共和国の日系3世1名が「地震工学コース」に参加することとなりました。この結果、「地震学コース（10名）」及び「地震工学コース（11名）」、「津波防災コース（5名）」の3コース合計26名の研修生を受け入れることになりました。この中には、2006年2月にマグニチュード7の地震にみまわれた南東アフリカのモザンビークから初めて参加する研修生も含まれています。研修は、来年9月までの1年間、政策研究大学院大学及びJICAと協力して実施します。

来日した研修生は、10月3日（水）にJICA筑波で研修開講式に、翌4日（木）には政策研究大学院大学で修士課程入学ガイダンスに出席し、5日（金）から建築研究所で1年間の研修を開始しました。

来年9月には、修士号学位を取得した研修修了生が、母国に帰国し、地震学・地震工学・地震防災対策・津波防災対策の専門家として、地震・津波被害の軽減のため活躍されることが期待されています。

<参考：研修生の出身国名（16ヶ国）>

- ・バングラデシュ、中国、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィジー、インドネシア、マレーシア、モザンビーク、ミャンマー、ネパール、ニカラグア、パキスタン、ペルー、スリランカ、タイ、トルコ

<写真：研修開講式における記念写真>

